

第 2 1 回多可町子ども・子育て会議 記録

日時	令和元年 1 2 月 3 日 (火) 15:00~17:00
場所	多可町役場 特別会議室
参加者	<p>●委員 出席：鈴木会長、木俣副会長、安平委員、藤田委員、門脇委員 荻野委員、高橋委員、清水谷委員、藤本委員、原委員 日下部委員、中川委員、高見委員、岡本委員</p> <p>欠席：岸本委員</p> <p>●事務局 岸原教育長、こども未来課 石井課長、市位</p>
会議内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 協議事項</p> <p>1) 令和 2 年度教育・保育施設入園申込状況について</p> <p>2) 令和 2 年度放課後児童クラブ申込状況について</p> <p>3) 第二期子ども・子育て支援事業計画（素案）について</p> <p>4) その他</p> <p>4. その他</p> <p>5. 閉会</p>
資料	・第 2 1 回 多可町子ども・子育て会議資料

1. 開会

2. 会長あいさつ

みなさんこんにちは。だいぶ年も押し迫ってまいりまして、お忙しいかと思いますが是非、今日はよろしくお願ひします。

3. 協議事項

1) 令和 2 年度教育・保育施設入園申込状況について

【事務局】別紙資料 1 により概要説明

【会長】全体としては、他市町からも何名か入所されると思います。でも一応スペースはちゃんと確保されているという状態ですか。

【事務局】そう理解しています。各園長様、それでよろしいでしょうか。

【会長】0、1、2歳児の入所が増えてきておりますので、0、1、2歳児の入所枠が、狭くなってくるかもしれないですけれども、そこは、何かありましたら柔軟に対応していただくような形になるかと思います。

【事務局】予想より働きに行かれる女性の方が多くなってきたと分析しています。ただ、全体の就学前児童人口が少ないので、3歳から5歳児については、ほとんど入所させられますので、これ以上入所される園児が増加するかどうかは不透明です。

【委員】資料1の表の区分のところが、みどりこども園と他の園が違うのですが、みどりこども園のほうが正しいのですか。

【事務局】大変申し訳ございません。みどりこども園さんの表示が、正解です。他の園さんはみどりこども園さんのように置き換えて読みかえていただけたらと思います。

【会長】また何かありましたら、会議途中でも話を止めていただいて、ご質問をお願いします。

【会長】それでは、2) 令和2年度放課後児童クラブ申込状況について、資料2の説明をよろしくをお願いします。

2) 令和2年度放課後児童クラブ申込状況について

【事務局】別紙資料2により概要説明

【会長】今の放課後児童クラブの状況について、ご質問はありますか。

概ね全員入れて良かったという感じですね。順調にいくように願っていますし、またその都度チェックをお願いできたらと思います。委員の皆様何かご意見はありますか。

【委員】特になし。

【会長】では、3) の次に行きたいと思います。第二期子ども・子育て支援事業計画の素案について、お願いします。

3) 第二期子ども・子育て支援事業計画（素案）について

【事務局】別紙資料3により概要説明

【会長】前向きな計画書になったと思います。各部署で見直したということもあると思いますが、皆さんのほうから少しずつ話を聞こうかと思います。よろしいですか。ちょっとしたことでも、今までの感想でも結構です。一言、言っていただいとこの感じにしたいと思います。あまり難しくならないとは思っています。

【委員】基本的には前回いただいた内容に修正、訂正とかあったということですか。すごくいろいろと町が考えていただいていると思いました。あとは、受け取る側が、どういう情報を、どういうタイミングで使えるかというところが大事だと思いますので、その辺の周知の方法もいくつか考えたほうがいいかと思います。

【会長】そうですね。結構いろんな子育ての事業がされていますけど、知らなかったりす

ることがあると思います。

【委員】 一番いいタイミングで一番欲しい情報が目に入るような何かがあればと思います。保護者は最初からは、わからないということですね。

【会長】 広報とかたかテレビとか、いろいろあるとは思いますが。

【事務局】 今、町のほうでは少子化対策ということで、いろいろな事業、子育ての施策だけではないですけども、例えば定住を応援していく婚活とか、ほかのいろいろな面で何とか少子化を食い止めていこうというような施策を考えております。中でも、こども未来課としては、子育て応援アプリということで、スマートフォンのアプリを使って保護者の方の携帯のほうに情報発信できるようなことを考えていこうと思っています。そのやり方も、こちらでアプリ業者を選定した方がいいのか、モニターとかのリサーチをしてからの方がいいのか、そこら辺も重々考えながら前向きな方向で、今、検討しているところですので、来年度から、4月からすぐに始められるかどうかは、約束できないですけども、町のいろんな情報発信の仕方というところを検討していますので、また、でき上がりましたら報告します。

【会長】 アプリですか。ツイートでもいいですけど。そういう形でいろいろ考えていただいて、いいタイミングで情報発信されるといいですね。

【事務局】 子育てふれあいセンターではSNSで、若いお母さん向けに、いろんな業務の情報発信をしています。

【委員】 今、インスタグラムで、いろんな活動、取り組みを発信している状況です。

【会長】 委員が言われたものと、これからされるものと、両方インスタで配信していただいたらいいと思います。

【委員】 今、しているものしかしてないので、また情報発信ということでは、これからも検討します。

【会長】 そうですね。チラシを撮って送られるので、そのくらいでいいかと。チラシとか、カレンダーとか、そういうふうなこと。多分、そっちのほうは何十万かけてソフトを作るより良かったりするかもしれないです。ただ、アプリになりますと登録してもらわないといけないので、そこのところだけは宣伝しないといけないのですが、いつも、ここで結構問題になります、お知らせが来ないとか、知らなかったみたいなことが結構ありますので、またそれは考えていただくということで、お願いします。

【委員】 私は県外から嫁いできたので、知り合う人というのが子どもの友達関係の人ばかりで、その知り合う人たちは大概、子どもが3人とかおられます。なので、あまり少子化とかいう言葉がピンときませんでした。うちも4人いるのですが、一軒に大体、3人とかいうご家庭が多いので、どこが少子化なのだろうと思ってたら、本当に少子化だったという事実が数字で今回、ここに書いてもらって見られ

たので、婚活とかもありだと思えるのですけれども、もう一人ずつ生んでもらうというのも、ありだと思ったり、2人のところは3人目を。

【事務局】藤田委員のところでは、ご主人以外に子育てを手伝ってくれるような方がお家におられますか。

【委員】おばあちゃんがいます。

【事務局】大体、お嫁さんが他所から来られている方が多くて、近くに自分の知り合いの大人の方がいないという場合が多いと思います。そうやって同居されて、おじいさん、おばあさんに援助をしてもらって子育てをされているのは、本当に理想的だと思いますが、そうでない核家族、お父さん、お母さん、二人だけで子どもを育てているお家も多かったですので、そこら辺をもう少しご相談できる大人を増やすとか、相談できる場所を増やすとか、何とか子育てをしていく環境を、もう少しいろいろな力を使ってサポートできたらと、そんな形を考えているところなんです。

【会長】都会から来られたのですか。

【委員】はい。

【事務局】旦那さんに魅力があったということなんでしょうね。

【委員】そうです。でも、人数が増えると、食費がすごくかかって、人一人育てるというのは大変でお金もたくさんかかります。

【会長】あまり考えたくないですけど、子どもが一人できたら何千万ですから。

【委員】もう1億円は超えてると思います。

【会長】そうですね。いろんな多産の世帯の支援ができたりすると、ワンモアベイビーで、もう一人というところと、それから婚活とか、どういうやり方がいいかですか。

【委員】来年度から小学3年生以上で英語の授業等が増えるため、下校時間が少し遅くなるかもしれないと、言っておられたと思いますが、今、一番上の子どもがサッカーで三木市まで行っているのですけれど、下校時間が午後3時の日ぐらいしか行けなくて、皆さん、どうされているのかと思っています。習い事をさせるのに、なかなか下校時間と合うところがなくて、他の方ってどうされているのか。近場だったら多分行けると思うのですけど、田舎はそれだけ不利で、まちに出るにも、なかなか時間がかかって、習い事すら選べる範囲がすごく狭くて。なので、本当に週1回、頑張って、自分の仕事とかを合わせて行くぐらいでないとできないので、これ以上、下校時刻が遅くなると、みんな習い事とかされておられたら、どうされておられるのかと思います。全然関係ないかもしれないですけど、何かもう本当に田舎にいるだけで不利で、習い事も、英語が入ってきて、だんだん下校時刻が遅くなると、三木市まで行くとなると最低1時間かかるので、もう必死で子どもに早く車に乗ってと言って連れていくので、そこまで行かれている方も少数だとは思いますが、なかなか平日に選べる習い事もなくて、スポーツをさせる

となると、何か、田舎だけにどうかと思っています。

【委員】今、1日5限目というか、今言ったように帰れる時間ですけど、来年度から3年生以上は1時間ずつ英語の時間が増えますので、5限目が2時間になります。週5回ということで、もう教科になりますので、3、4年生は英語活動というのが正式に週一で入ってきますので、ほとんど毎日6時間目までというような形になります。

それが若干、時間割というような、朝から始業、チャイムが鳴って区切っていきますが、それが若干早くなるといっても、そんなに早くなるのは、なかなか難しいです。できるだけ遅くならないようには考えていきたいと思いますが、でも午後4時前ぐらいが最終になると思います。今、一斉下校という形になっていて、やはり全員そろって午後4時に帰るというようになると、なかなか時間確保は難しいと思います。

【委員】6時間目が午後4時10分下校なので、習い事が午後4時半に始まったりするので、全然間に合わなくて、午後3時10分の下校のときに、そのまま車に乗せて、車の中でできる勉強とかをさせながら行って、やっと午後4時半に間に合うぐらいなので、これ以上遅くなると、選べる習い事が少ない。まちに行くほうが、いろいろと習い事を選べたり、強いチームがあったりします。

【委員】そういう学校もあります、ちょっと早いですが、もう授業は一応終わってる形なので、下校時間を待たずに。

【委員】下校時間を待たずに行こうと思います。

【委員】はい。保護者から連絡がある家庭はあります。

【委員】関係ないかもしれないですけど、皆さん、どうされているのかなと思いましたので。

【会長】学校まで行って、ピックアップして、ダッシュで行くみたいな感じですか。

【委員】はい。そうです。帰ってくると眠たいので、宿題もなかなかなくて。

【会長】授業時間は長くなるみたいです。国のほうは何か英語だの、プログラミングだの言っているので、何かやらなければいけないのです。

【委員】習い事に行くのはなかなか難しいですね。

【会長】そこは学校もつらいところです。でも柔軟に、そうやって対応してもらうこともあるかもしれませんが。

【委員】先ほど田舎だからという意見がありましたが、本当にそうだと思います。何につけ、車がないと移動ができなかったりすることがあるので、本当にそういう部分だと思ふ反面、田舎で自然がいっぱいあってよかったというところも、最近、散歩とかで5歳児が散歩して、改めて多可町、田舎で良かった、自然がいっぱいで良かったというのも言っていたこともあるので、今、熊が山に出て、山登りをしたいけど、熊に遭遇したら怖いので、あまり行けないのが、すごく残念ではありますが、その分、近辺を歩いて自然に触れるということをしていますけど、田舎で良かったとい

う話を職員としてます。そういう点では田舎で良かったと思います。

【会長】では、田余は否定しないで。熊、今年出ているのですか。

【委員】時々そういう情報がまだあります。

【会長】どんぐりが山では今年是不作な年なので、なかなか皆さん、大変だと思いますが、安全に気をつけて、是非散歩に行っていたきたい。

【委員】48ページで量販店巡回補導の女性補導委員を中心にとありますが、女性の方ばかりで万引防止活動というのをされているのですか。

【事務局】スーパーとかに、日を決められて、女性の方が委員になられて行かれているのを私も拝見しました。

【委員】もし、そういうのを見つけた場合に、男の方ではなくても、その辺は大丈夫なのですか。反対に抵抗に遭うとか、そんな心配はないのですか。

【教育長】補導委員会の中で、女性の方が10人ほどおられますので、平素は男性の補導委員に土曜日の夜、午後8時ごろから複数で車で町内を巡回していただいています。女性部の委員さんには休みの日に複数で町内のお店を回って、子どもたちの買い物の状況とかを聞いたり、万引がないか、などの情報を集めたりしていただいています。

【会長】安全に気をつけてやっているということですか。

【教育長】そうです。複数で回っていますし、万引き等をしている現場を直接補導するというのではなく、店の方と情報交換をして、最近、小中学生がこういう傾向にあるとか、うち店で最近こんなことがあったということを知って、補導委員会に持ち返って、整理して、小中学校へ情報提供したりしています。

【委員】子育てのしやすいまちということで、ファミリーサポートセンターを実施されるということで、私もそのファミリーサポートセンターの存在を知ったのが、ずいぶん昔の10年ぐらい前ですけど、この辺であまり必要がなかったと思ったりしていましたので、それが必要になってきて、これから実際にどうなっていくのか。私は専門ではないですが、どこでも預かっているようなことからすると、責任ができてすごく大変だとは思いますが、必要な人というのは、やはり出てきますし、それがあつたら今言われたように、もう一人子どもさんを産もうかという人も出てくるかもしれないですし、これから、それがどうなっていくのかということは見ていきたいと思えます。

それと、子どもや保護者を見ても、子どもさんが3人いても別に少なくはないです。3人ぐらいおられるのが、普通なのです、保護者からすれば。でも、やはり少ないのは外に行つて帰つてこない人もあれば、帰つてきたけどなかなか結婚できないという人もあつたり、せつかく帰つてきた人は、ぜひ結婚できるようになってほしいと思います。うまく結婚相手が見つかつて結婚できたら良いとは思えます。

それと、田舎で育つことの良いところは、習い事がなかなか行けないということはあると思うのですが、逆にいうと、まちに比べるといろんなことをするのにお金をかけなくても良い。よそへ行ったら、塾とか予備校とか、ずっと行かさないで、周りとの関係からいうと、すごくお金がかかっていると思うのです。田舎にいますと、そこは比較的のびのびと、ずっと大きくなってもらわれると思うので、かかるお金は、まちよりはだいぶ少なく済むのではないかとはいったりします。

それと、環境は子どもの育つには良い環境だと思いますので、その魅力をわかって、多可町に定着して、子どもがたくさん増えるようなことになればいいと思います。

【委員】この合計特殊出生率の増加、これ何だろうと思って、後を読んでいたら、一人当たりの女性が一生に産まれる人数ということで、それは上がっているけれども、少子化は進んでいるということは、子どもを産む方は産むけども、産まない方が増えているということは、私も自分の子どもたちで実感しているところで、よその血のつながらない孫みたいな子どもさんたちに囲まれているのですが、血のつながった孫には恵まれなくて。なので、どんどん地元ではなくて、外へ魅力を感じて出ていってしまうので、私は田舎の良さも、生まれ育ったところで、帰るべきところはふるさとだと感じますけれども、若者たちが大学等を卒業しても魅力を感じて戻ってきたいと思ってもらうには、これだけ考えられた、充実した方策がいろいろあるのに、若者たちはどうして帰ってこないか、そして、結婚をして子どもを産んでくれないのかと思うと、どうしてでしょう。どうやったら魅力的になるのかと思ったのと、小学校へ行って、いろんなスポーツだとか習い事とかで、能力を、伸ばしたいと思うと、とても忙しいのだなと思いました。時間に追われて忙しいと思うと、就学前の幼児期は広い場所と自然に恵まれたところで自由な時間を、けんかしたり、転んで擦り傷をつくったり、そこでうまくいかないで泣いたり、すねたり、そういう余裕のある時間の中で生きていく力というか、いろんな人ともつきあえるみたいなことが、今、とても若者たちが苦しんでいることのもとになる力が、その時期に育つと思うと、そういうことは目に見えないけれども、大切なことが、この多可町で育つということが実感としてアピールできるようなことになると、いいと思いますけど、具体的にどうしていったらいいのか。やはり魅力的な、いろんなきらびやかな能力が目に見えるような形というのは、親であつたら活躍できる人、幸福を味わえる人みたいなことを望まれると思うのですが、挫折する子どもたちも多かったり、そういう人が大人になって弱い子どもを悪用して自分の満足を得ようとしていたりみたいな事件が、たくさんあると、どんな子ども時代を過ごされたのかと思います。ここには、とてもそういう力が育つ環境が整っているということが、本当に大事なことが、それぞれの年代の人たちが次の今から生まれる人、子育てに奮闘されている人みたいな方に伝わったらいいのにとはいりました。自分の子どもも帰ってこないし、出産もしてくれないのに全然説得力ないのですけれど。

【会長】是非いい知らせが来るのを待っていますから、よろしくお願いします。

【委員】少子化の問題とか、出産して、子どもが生まれたら、これだけの施策があるというのを、すごく事細やかに書いてあって素晴らしいと思ったのですけれども、でも、やはり子どもを産んでいただこうと思ったら、まず出会いの場をつくらないといけない。出会いの場がつくれて、すてきな人が見つかったら、住むところ、どこになるのといったら、そういうお家が建てられるような土地があるのかなとか、すてきなマンションあるのかなという若い世代が満足できるようなことってあるのかと思います。それがあったとして今度、めでたくおめでたになりました、では、出産する産院は、どこにあるのと考えたら、かなり遠いです。となると、やはり地元で出産しようと思うと、すごく不安を感じられる方が、まずそこでつまづかれるのではないかと思うのです。その後に、子どもが無事に生まれました、安全に遊べる公園が近くにあるのかとか、子どもが一人で買い物に行ってもいい駄菓子屋さんがあるのか。たまにはお母さん、外でご飯食べたいし、談笑できるファミレスがあるのかとか、毎日ではないですけども、ちょっとした一休みできるようなまちづくりができたらいいなと。小児科がすぐ近くにあればいいのにとか、そういうことを思いました。

埼玉県で、子ども村といって、子どもが子育てしやすいという地域をつくられている園があって、そこには駄菓子屋さんがあったり、すぐ行ける病院があったり、公園があったりという村づくりをされているという話を聞いて、そういうのはすてきななと思いました。こういうところだから子どもが育てられて、遠いところからお嫁さんに来られた方も友達ができて、地元で根っこを生やしていけるという村づくりが、この自然の素晴らしいものがある多可町の中でできたらいいなと、壮大な計画ですけれども、というのは、すごく話を聞いて思いました。なので、私は子ども園で仕事をしているのですけれども、園として何ができるのかというのを、いろいろ考えていけたらいいなと思いました。なので、町のほうも一生懸命頑張ってくださいるので、私たちも微力ながら手伝いができて、多可町で子どもを育てて良かった、住んで良かったと思うような地域づくりに参加できたらいいなと思いました。

【会長】すばらしいですね。ただ、みんなで夢を描かないといけないということなので、そんな話を出していただきながらということですね。

【委員】私も町外から来ているので、キッズランドやちよから出張に行くときに、とても不便で、どうやって行くのですかと聞くと。まず公共交通機関で西脇市駅まで行きますとと言われて、西脇市駅から加古川線で加古川駅まで出て、それは2、30分ぐらいで行くのですかと言ったら、50分ぐらいかかります。不便です。確かに自然環境が良くて、本当に豊かで心が洗われるというか、癒やされる、そういうところであるのですけれども、高校生が、どのようにして高校に通っているのか、わからないですが、やはり公共交通機関というのがすごく大事だと思うのです。だからと

いってJRを引っ張ってくるわけにもいかないとは思いますが、もう少し交通の便が何とかなったら、住みやすくなるのではないかと思います。出やすくなるし、来やすくなると思います。そしたら、流通がうまくいくと思うのです。やはり町に働きに来られる。そしたら、人口が増えて、出産もという、何かそういう好循環になると思います。だから、難しいことですがけれども、そうでないと、なかなか人口が増えないし、教育長が今年の成人式の人数270人だったのに、去年生まれた子どもさんが84、5名と言っておられました。何か根本的なところのテコ入れが必要なのかと思いました。

私が、具体的に思ったところは、「きっとありがとう」の歌、とてもすてきな歌で、前の園にいたときにCDを送ってきていただきました。送られてきたCDを、歌ったら、本当にこの歌を気に入って、それをほかの催しで歌ったときに、楽譜が欲しいですか、そう言われて、私は、これはいい歌で、本当に広がっていけば、いいなと思いました。

子育て支援もあるので、お家の方、保護者がとても忙しい感じがしています。子どもの心が何か不安定だということを、本当に子どもにかかわり、親にかかわる中で感じています。いろんな施策がありますが、忙しかったら、チラシが配られても、それすら目にする事なく過ごしておられて、ファミリーサポートもですが、ファミリーサポートが、運営されても、なかなかうまく利用されないだろうと思います。どうやって伝えたら、どういうふうにかかわってあげたらいいのか。そしたら、子どもがもっと心の安定が図れるのかというのを本当に日常的に感じます。本当に一部ですが、そう感じる場所があって、それを感じるのは園、やはり子どもにかかわっている保護者の顔を見ている園だということは、本当に常日ごろから思っています。だから、そのところで、私たちがどれだけのことを知って、どのようにつないでいくかということは、なかなか難しいですけど、頑張らないといけないという気はしています。だから、こういう子どもが、今も相談に、もちろんこども未来課とか、健康課、福祉課の方とか相談にのっていただいているのですけれども、でも何か難しい面も、家庭によっては、それを外に出さない家庭もあるので、でも子どもを見てたら、絶対に支援が必要だと思います。この子どもの安定を図るには、保護者の安定を図らないといけないというところで、どうしていったらいいのか、どんな声をかけたらいいのかというのを、本当に悩んでいます。ただ、そういうところを相談にのってくださるので、相談しながら、本当に進めていけたらいいと思います。とにかく保護者は忙しい。仕事をしなければやっていけないので、しっかり仕事されている保護者は悪くないのです、それは。でも、保護者の方への声かけを考えていきたいと自分自身、思っています。

【会長】交通とか産業の面は、まち全体の都市計画やまちづくり計画を、頑張ってもらえないですけども、でもお忙しくて心に穴が開いた方には、一応相談してもらっ

ているので多分、役場のほうからも支援しながら、また小学校は、ちゃんとつながっていただいていると思います。でもあっちもこっちも忙しくなるというのがあって、園の先生方も忙しくなって大変だと思います。そこを何とかうまくつなぎながらでも、支援しながら、何かうまく働けたらと思います。

【委員】私も三十何年勤めて思うのは、昔と比べたら学校の職員と親御さんとの関係が希薄になってきていると感じます。そういう時間も、学級懇談であるとかPTA活動の中でもお話しするような機会が、もっとあったのが、そういうものが減ってきていると思います。その中で11月16日にPTCAの実践発表会があって、うちの中町南小学校のPTA活動の発表が当たりまして、参加者の前で発表しなければならないということになって、会長さんたちと、どうしようという話のときに、私はPTA活動の中身を報告したらと思っていたのですが、会長が、それだけでは、見守り隊であるとか、いろんな形で地域の方々にも世話になっている部分も抜きには考えられないので、そういうことも話したいということを知り、私もはっとさせられました。親子の活動だけでは、もちろん学校もそうなんですけど、地域の方々の力みたいなのを、すごく大事だと改めて私自身も考えさせられました。学期に1回ずつ花植え活動ということで、この指とまれということで、これは6時間目の委員会活動、子どもたちと一緒に学校のあちこちに花を植えてもらう活動をしているのですが、今、地域の方々が学校だよりを見られて、もちろん保護者の方も来てもらってもいいのですが、来ていただいているのは、ある地区の老人クラブの方々が大体20人ぐらい組織して、それは日ごろから学校のグラウンドを貸してもらって、グラウンドゴルフされています。何かそれに見合うものを返していきたいということでされているのです。そういうことを思うと、おじいちゃん、おばあちゃんのパワーを、これから本当に教育過程がいろいろと混んできて、もちろんお父さん、お母さん方の力も借りるのですが、そういう時間に融通の効く年代層の方々がゲストティーチャーに来ていただいて、いろいろ手伝っていただいたりとか、そういうものを、もう少し広げていかないと、なかなか学校教育、あるいは家庭教育も含めて、立ち行かないところに来ているのではないかと思うので、そういうことを今後、学校づくりとして考えていけたらと思っています。

【会長】本当にいろんな事業の中でも、そういう地域を巻き込んだ、子どもの見守りだったり、そういうことに参加される方があるという部分で、本当に多可町の良さみたいなところがありますので、是非今後ともご提言のほうも、よろしく願いいたします。

【委員】私は本当に若いころは田舎が嫌だと思っていましたが、不便だし、何かきらびやかなものもないし、というようなことがあって、とてもではないけど、こんなの嫌だと思っていたところが、今はこうやって住んでいるわけなんですけど、今、逆に、例えば1日、大阪に出かけて行って帰ってきたら、もう何かへとへとになっているの

です。かといって、たまには行かないと嫌なので、たまに出るのですが、大阪に出るとしても今なら車で1時間半ぐらいかけたら何とか行けます。昔に比べれば、早くなっています。だから、ほんの何カ月にも1回出かけて行って、空気を吸って、へとへとになって、また帰ってきて、またここで何かゆったり過ごすのです。

やはり田舎はいいなと思うのですが、私は区長ですので、この中にあります、地域における子育てとかいうところや、地域交流での学びの場というようなことの中で、地域と子育てというものを本当に切り離せない。本当に大切な部分だということを、改めて感じさせてもらっています。だから、帰って来るにしても、またこちらへ移住されて来られるにしても、ここに住んでみたいという魅力を感じてもらわないと駄目だし、感じさせるような地域づくりをしていかないと駄目だし、そういう田舎であっても、だんだん、その辺の、昔に比べればつながりや絆みたいなものが希薄になりつつあると感じるのですが、その魅力というか、それから自然の魅力とか、その中で心豊かに暮らせるというか、そういう田舎でこそというところの魅力を、もっと、この地域づくりの中でやっていかないといけないと、今、改めてここで感じています。また、安全な環境づくりというのもありましたし、その辺も含めて、全て村づくりにかかわる問題だと実感しています。

今度、新年度、町長がタウンミーティングされるという話があって、その中にも子育て支援とか共生社会の話が入ってくるということなので、その辺で、みなさんにもっと周知して、私たちもいろんなところで連携したり、頑張っていけるようなことを模索していけたらと思っています。

【委員】 この計画素案も立派なものできて、これを、本当にいかに具現化させて、ただ実践していくかということが一番の課題だと思います。先ほどから、いかに周知していくかということが出ましたが、本当にそれが大事だと思います。

先ほどから、確かに田舎は、環境がいい、子育てには最高、素晴らしいところである。そのとおりだと思います。でも、それは今まで人生を歩んできた大人の考えであって、子どもたち自身は本当に素晴らしいところと感じているかどうか。私自身、別に小さいころから田舎が好きだったわけでは決してありません。私は、次男坊ですから別に田舎にいる必要はなかったのですが、何で帰ってきたかという、田舎にいるよりも、まちの喧騒が嫌だったと、こんなごみごみ人の多いところではなく、やはり空気のいいところに住みたい、生活したいという思いで帰ってきたのですけども。だから、子ども自身も、いかに本当にふるさとが、いいところだと思ってもらえるか、郷土愛と言ってもいいかもしれませんが、そういうことを、持たせていく必要があると思います。私たちの、子どものころは農業するにしても、そんなに機械はなかったです。おやじが牛の尻をたたきながら鍬で田んぼをすいていく、小さいころは、そんな状況でした。それがだんだん機械化されていって、耕運機で牛の代わりに田んぼを耕す、そしてやがて田植えとか稲刈り、そんなことも全

て機械化されてくる。そういう中で、私の子どものころは生活の中に百姓というか農作業というのが手伝いの中にあっただけでも、今の子どもたちには自然と触れ合える場所があっても、本当にふれあいができているのだろうか、今、都会だけでなく、田舎でもゲーム機にスマホ、そういうことが主流になってきて、本当に実際、自然を体感する機会が少なくなっているのではないかと。本当に自然で体験するというのが、いろんなところで事業化されてありますけれども、そういうときだけで、子どもたちの日常生活の中に、自然との体験というか、そういうものがない。ないから、あえて学校で、そういう特別な時間をつくり、あるいは町の行政のほうで自然と体験できる授業があるのが実情だろうとは思いますが。やはり一つの視点として、自然を体感、そういう場が必要だろうと。最近、外国人の旅行者もインバウンドで、最近は非常に日本でいろいろな文化を体験する企画が大はやりだそうです。昔はいろんなところへ行って見聞するというのが主流だったけれども、それが見聞だけでなく、実際に体験する。着物を着てまちを歩く、それも体験でしょうし、そんなところでの、そういう体験を通しての文化を知る。それと同じように、子どもたちも、そういう田舎の自然、文化、そういうものを体験するというのが本当に大事ではないか、そんなことを思います。

それと、4ページに多可町の人口の資料が出ていますが、いわゆる学齢期の子どもたちよりも20歳以上、25歳から35歳、そのあたりが、一番人口が少ない。だからいわゆる中学、高校ぐらいまでは、地元ですべて生活してても、高校を卒業したら途端にみんな出ていく。そして、また、ある程度、子どもが小学校へ入るぐらいになったら若干、帰ってくる人がいる。だから、一番子どもを出産される適齢期の人口が少ない。だから、もう当然、生まれてくる子どもが少なくなるのは、当然だと思います。その辺で、何か子どもたちの学校教育、幼児教育も、その辺からいるかもしれませんけれども、ふるさとを愛するというか、ふるさとを本当に好きだという気持ち、どうやって醸成したらいいのか。それは大きな課題ですけども、そんなことを感じました。

それと、いろんな素晴らしい施策を立てていただいていると思うのですが、それぞれこども園なり、あるいは学校なりでは、きちっとしたそういう組織の中で子どもたちが活動しているから、いろんな町としての施策も、その中でたくさんの方が可能だと思うのですが、そこから、それでいった子ども。子育てというのは、何歳ぐらいまでかわかりませんが、例えば、私の今、担当している地域の中にでも引きこもりの子がいたりします。もう既に年齢は30歳を超しているような青年ですけども、大半家の中に閉じこもり、近所で聞いたら、時々親と一緒に畑に出てきたり、時々買い物に出ていたりしているみたいなことは聞くのですが、そういう人がいる。実は先だって、国のほうも、そういう引きこもりの調査が、民生委員として担当している地域の中に、そういう労働力人口の年齢の人で、家に

引きこもっている人がいませんかという。あれば人数を報告してくださいという調査があったのですけれども、それで一人いますと報告したのですが、そういう人たちに対する手立てとといいますか、それを、どんなふうにしていったらいいのか。もちろん当局、行政のほうも苦心してくれているのですが、そんなところの連携とといいますか、そういうことも大事だと思います。学校とか、こども園とか、そういうところでは、いろんなチラシが入り、そんなことはいろんなことができますし、またそこへの施策というのは、いろいろお金も出せるけれども、なかなか、そこから外れてるというか、出てしまった子どもたちに対する手立てとすることの必要性和難しさを感じます。特に、そういう子どもを持っておられる親御さんにしたら、うれしいことではないですから、あまり外へは出されませんので、地域でも、私も長いこと、本当に担当するまで、あそこの子、ずっと家にいるのか。もう、どっかへ出ていると思っていたというような、そんなことが、よくあります。そういう子も何人かいます。

【会長】 その辺の年齢が減っているのので、この会議の範疇ではないですけども、全体を考えたときに、今いる子どもたちが、そうなる可能性もあると思うと、いろいろ考えていかななくてはならないと思います。

【委員】 今朝の神戸新聞に確か出ていたと思います。全国に60万人ほどいる。県下でも2万人以上、そういう人がいると、新たに調査するみたいなことを、今日、神戸新聞には書いてありました。

【会長】 2万人ということは、多可町全体が引きこもっているぐらいです。

そう思ったら、とんでもなく多い数です。だから、支援とかというの、本当に子どもたちの支援でノウハウがあるので、そういったところを少し伸ばしながらということも考えられると思いますので、その辺も行政としては少し勘案していただきながら、お願いしたいと思います。

【委員】 共感するところがいっぱいあったなと聞かせていただきました。こういう場で、そういういろんな話を聞いたりとか、いろんな意見を聞かせていただきながら、今回、こうやって計画が出たところの方向性というところを、今後の事業にしっかり落とし込みながら取り組んでいきたいということ、この豊かな多可町の自然とか地域の方々、多可町の資源をフルに活用しながら今後も取り組んでいきたいというのは、今、しみじみ感じています。

情報発信の件ですけど、これからの先を見通したところを情報発信していくことが大切だと鈴木会長が言ってくださって、それも早速見ていこうと思っているところと、もう本当に、情報発信しても、やり過ぎということはない。いっぱい届けていけないといけないということもあると思って、子育て応援アプリも今後できるような話もあったのですが、私ども、アナログ世代はずっと3歳児の子育てには町が発行されている応援プログラムを使っています。0歳から18歳までのところ

の子どもに関することが網羅して出てる分があるのですが、そういうのも2カ月教室という赤ちゃんの教室のところで配らせていただいたりしてるのですが、その更新がなかなかできてないところがあって、そういうところも、スピーディにしていって、情報発信していけたらと思っているので、それって出るのでしょうか。

【事務局】ほかの課と調整する部分があるので、そこも含めて検討を、できるだけ早くやっっていこうと思います。

【委員】結構活用しているので、できるだけスピーディにお願いしたいと思っています。

【会長】方向性も踏まえながら、是非お願いいたします。もう大体、審議、計画書はこれで大丈夫ですか。

【副会長】私は、こんなすごい量と思いながら見てまして、39ページの一番上の欄ですけれども、共働き家庭の増加、ずっといってもらって、また年々増加という増加が2つ、ここにポンポンと出てきてるのが気になったというか。気になったといというより、終わればそれでいいのですけれども、検討していただけたらと思いました。

42ページの5行目に図っていますがというのも、「が」というのが、ところどころに、まだまだ出てるなというのが気になったのですけれども、ここで前向きな文にするのであれば、ここも2行目の「が」もありますし、その次の「が」もありますし、その次のページの4行目の「が」もありますし、「が」が気になりまして、もし検討にさせていただけるのであればと思いました。

【事務局】丸でとめるかで。

【副会長】そうですね。それがいいと思います。54ページが6行目に「が」があります。そのずっと下にも指導助言を行っていますがという「が」が、気になりましたので、話させていただきたいのと、それから次、55ページの園巡回相談の横ですけれども、もちろん心理士による子どもの発達障害の支援を助言していただいていることは確かにそうです。ここで各園の先生が、話されているから、いいのですけれども、職員の指導もしてくださっているのですけれども、そんなことは書かないほうがいいですか。子どもに関することであるから、職員の指導となってしまうらいいのかなと思ったりもするのですけれども。

【会長】間接的に子どものためになっていると思います。

【副会長】ということも思いました。

【会長】それは、また入れていただいて。

【副会長】はい、いいですか。なかなか長い文でしたけれども、言わせていただきました。

【会長】その辺を修正していただいて。皆様におかれましても、もし何かお気づきの点があれば、いつぐらいまでに言ったらいいですか。

【事務局】できましたら12月の定例教育委員会に出したいと思っています。

文言は、まだ修正をしてもらわないといけない。内容は変わらないと思いますけど、言い回しとか、実務の関係がありますので、この繋がりがおかしいというような

ころもあると思いますので、そのあたりの整合性を取りたいと思います。

【会長】その後パブコメに出るのですか。

【事務局】はい。そうです。

【会長】とりあえず何かあったら、ここ1週間ぐらいで出していただきたい。

【事務局】そうですね、ここ1週間ぐらいでお世話いただけるとありがたいです。

【会長】そんなに時間はないとは思いますが。というわけで、1週間ぐらいをめどに。

どんなに遅くても来週末あたりまでに出していただければ。ということではあるのですが、基本線、これでお認めいただくということでもよろしいでしょうか。

では、これで支援計画に関しましては、この会としてはゴーということで、よろしくお願いいたします。

【事務局】今日もたくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。少子化対策ということで、なかなか子育て施策ということもありますけれども、若い人が結婚に結びつかないというようなこともございまして、多分、国のほうでも単身者の方への調査をされたことがあると思います。そのときに、どうして結婚しないのですかというような質問に対しては、結婚したいけれども、出会いの機会が少ない。どうしても自分では、その機会を見つけれないというところと、もし機会があっても結婚して家庭を持って子どもを育てるには、なかなか経済的に厳しいというような若い方の意見があったようです。なので、そこのところについても、町もいづらか、どれぐらいできるかわからないですけれども、考えていかないといけないところだと思っております。

それから、学校教育と、家庭教育と、また地域の方にも子育て支援にかかわっていただかないといけない。確かに、地域の方の力なくしては、今からの子育て支援が十分にできていかないというところですけど、なかなか地域の方々も、少し前でしたら子どもたちに知らない方には声をかけたら駄目と言っていた分もありますので、それこそ11月16日のPTCAの会議の中では、学校であったり家庭教育から地域のほうの方々に声かけをして、そして顔つなぎをしてつながりを持っていただくということをしないと、なかなか地域の方だけで、こちらのほうへ支援をしていただけるような機会は少ないということを講師の先生に話していただいたように思います。

また、少し大きくなられた方の引きこもりですけれども、町のほうといたしましては若年者の支援連絡会というのを学校教育課、それからこども未来課、福祉課、健康課で子どものときから順番に、引き続き途切れずに支援していくというようなネットワークというのをつくらせていただいております。学校での状況を、また上になってもつないでいって、随時その場所で支援ができていくようなことも考えておりますので、今後ともよろしくお願いしたいと思っております。

これで多分、今年度、子ども・子育て会議、第4回目となりまして、ほぼ第二期の多可町子ども・子育て支援計画の本編と、また概要版も、でき上がりつつあるような

状況でございます。委員の皆様は、かなりご意見なりご審議していただきましたおかげかと思っております。また、今後ともどうぞよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

【会長】本当に委員の皆様方、お一人一人、いろいろ意見を言ひていただひてどうもありがとうございます。多分これで何とかなると思ひます。あと、訂正してという形です。保護者の皆さんは、もうこれで終わりなんです。

【事務局】続けて会長をされたら、別ですけれども。

【会長】そんなことで、本当にまた非常に難しい話に、おつき合ひいただひてありがとうございます。また次の代の方に、こんなことでいろいろ持ひていったら、みんな聞いてくれると伝えていただひて、本当に普段、役場の方は聞けない話をしていただきまして、本当にありがとうございます。是非当時者の立場で、これからも提言いただくと、また今の方々と一緒に支援とか協力をいただきたいと思ひます。ほかの委員におかれましては、ひょっとしたら、また次のお願ひするということになるかもしれません。そのときは是非よろしくお願ひいたします。

【副会長】第21回を数える子育て会議、とてもいい話を聞かせていただひて、立派な施策をされていること、この事業として計画されていること、本当にこれで、もう100%できたと思ひてしまいがちですけれども、やはり子育てするなら多可町でという言葉の裏といいましようか、その言葉の幅といいましようか、もっともっとみんなで考える余地がある範囲だと思ひます。だから、この計画にあぐらをかくのではなく、今から見直したり、検討して、繰り返していかなければいけないと思ひました。

そして私事ですけれども、話をされていりました学校へ迎へに行くのは、私は孫ですけれども、孫が行くのに、午後3時半には必ずそこに行かないと塾に間に合わない。それで連れて帰ったら午後7時になる。その間におにぎり食べさせて、宿題は車の中で、字はゆがんでますけれども、そんなことが4回あるうち、私が2回ぐらい行くのですけれども、良く気持ちがわかります。

それから、いろいろと聞かせてもらった中で、教育現場の中で、この多可町の田舎と、また神戸、大阪、もっと広いまちの中での教育方針というのは、大体似たような教科書を使い、数学の速度であり、そういうのも大体同じような感じをしていく中で、多可町の自然を使った多可町での特別な教育方針というのを、もっと増やしていただくというか、そういうような同じ教育方針の中の日本全国の中からも、多可町はこんななんですという、そういうところを増やしていただけるのであれば、ありがたいと思ひたりします。各こども園でありましたら、大きな保育指針、教育指針というのがあります。でも、その中で落としていくものは各園であって、園長であって、主任であって、各先生方なのです。だから、その地域の者がずっと体験していくことがあるかと思ひます。本当に各園の先生方は、園の方針を自分のところ独自で考えられておられると、いつも勉強させてもらっているのですけれども、もし小学校もそんなことを、されているのかもわかりませんが、もしそんなことがあるのであれば、多

可町独自の教育方針的なものが、中にポンポンと入れば、またもっと多可町にいて教育を受けたらいいよという、そういうようなことがあれば、ありがたいと思いました。

本当に今日は最後まで熱心な意見をいただきましてありがとうございました。そして、これで本年度の委員としては保護者の方も変わられ、高見委員も変わられということで、また次年度に続く委員様には、ご協力願いたいと思います。本日は、ご苦勞様でした。